



クラブ訪問

244

「みんな仲良くさらに強く」

成田サッカースポーツ少年団

私たち「成田サッカースポーツ少年団」は毎週土・日曜日、祝日に活動しています。所属しているのは年長1人、小学生99人の計100人で、ニュータウンスポーツ広場や後谷津公園などで活動しています。

練習は、走る・蹴る能力を身に付けるために、ラダーと呼ばれる器具を使ってステップを踏むトレーニングから始まります。その後パス・ドリブ

ルなどの技術練習やあらゆる試合展開を想定した戦術練習をして、最後には、その日に学んだことを生かして試合形式の練習を行います。

クラブで大事にしているのは、大きな声を出すこと、あいさつをすること、仲間と仲良くすること。チームスポーツであるサッカーにコミュニケーションは欠かせない要素です。普段から声を掛け合っているので、学校や学年が違っても、自然と仲間意識が生まれ、チームは一体感を持って活動できています。試合中も、ゴールへのイメージを共有できているので、それが勝利につながり、5月に行われた大会では優勝することができました。

今の課題は、不利な状況でも声を出し合ってみんなで前を向くこと。仲間との絆をもっと深めて秋の大会でも優勝したいです。



ドリブルで相手をかわしてゴールへ



ボールと友達になる練習



いだいだい
飯田 大輝 キャプテン

兄の影響で5歳から始めました。自分から積極的に声を出して、チームを引っ張っていきたいです。

なかまと一緒に

242

「ゼロから作る達成感」

成田竹工芸保存会



伝統を引き継いでいきます



竹ひご作りは力作業



完成をイメージしながら編む

私たち「成田竹工芸保存会」は毎月第1・3火曜日に久住公民館で活動しているサークルです。

私たちのサークルは材料の調達も全て自分たちで行っていて、毎年12月にメンバーで山へ竹を切りに行きます。取ってきたばかりの青竹は材料としての長期保存に向かないので、カセイソーダを加えた熱湯で煮て油抜きをすることににより耐久性を高め、1年間の作品作りに備えます。

作品は紙の厚さほどの竹ひごを編み込んで作っていきますが、この竹ひご作りが作品の出来栄えの8割を占めると言われるほど重要な作業。皮を削った竹を作品に必要な細さになるまで割り、薄くするためにそいで、最後は専用の器具を使って幅と厚みをさらにそろえていきます。力も時間も必要な作業ですが、幅と厚みが均等であるほど作品が美しくなるので、手を抜くことはできません。

竹ひごを作ったら、ようやく編む作業に入ります。折れやすい節が作品の角にこないようにするなど気を付けるポイントがあり、最初はなかなか満足した作品ができません。反省点を生かして同じ物を再度作ることもあります。前回よりも美しい作品が完成した時は自分の成長を感じ、達成感があります。

家でも作業するほど竹工芸が趣味となっていて、弁当箱や竹かごなどの作品は普段の生活で役立っているほか、友人から制作を頼まれることもあります。より多くの人に竹工芸の魅力が伝わるように今後も活動を続け、伝統を引き継いでいきます。

スクスクのびのび



いまい りょうせい
今井 涼晴くん

いつも元気いっぱい、甘えん坊で抱っこ大好き♡



おくら なつき
小倉 杏月ちゃん

自由に動き回れるようになり、のびのび遊んでスクスク成長中です◎



はら けいた
原 啓太くん

初節句でみんなに会えて楽しかったよ!

このコーナーには市内在住で5歳までのお子さんの写真を掲載しています。お気に入りの1枚が撮れましたら、ぜひお寄せください。

○応募方法 お子さんの写真・住所・氏名(ふりがな)・生年月日・性別、親の名前、電話番号、30字程度のコментарを郵送またはEメールで広報課へ
〒286-8585 花崎町760 成田市役所広報課
koho@city.narita.chiba.jp (写真データはJPEGで容量1MB以上で送ってください)
○応募先 広報課 ☎20-1503
○問い合わせ先

506